

2023薬用作物栽培技術研修高知会場資料

三豊市における薬用作物栽培普及に向けた 4年間の取り組み

2023.11.28

三豊市農林水産課

地域プロジェクトマネージャー
高畠正彦

はじめに

- 私は薬草の専門家ではありません
- 薬や植物に関する国家資格もありません
- 自分自身で薬用作物を育て、出荷した経験もありません
- 漢方薬メーカーに勤務していましたが、営業職としての生薬知識程度しか持ち合わせていません
- ひょんなことから地域おこし協力隊として薬用作物に関わり今年で5年目を迎えている私の活動を有り体にお話しします
- 「答え」をお示しできるとは思っていません
- 「真剣に薬用作物栽培を広めたい」という熱意を持った皆さんご自身の、行動のきっかけになればと思います

現在の栽培状況

- ミシマサイコ 【三島柴胡】
栽培者43名 (+1) 87.4 a (-13.1)
 - キジツ 【枳実】 = 橙(ダイダイ)
栽培者18名 (+3) 389 a (+130)
 - ヤマトトウキ 【大和当帰】
栽培者8名 (-3) 22.6 a (-7.7)
- ⇒短年栽培品は人の入れ替わり、面積増減有
※栽培者個人に対する、県・市からの補助金はありません(-_-;)

これで「産地」でしょうか？

- 昨年の売上高はせいぜい250万ほどです
- ミシマサイコの一人当たり栽培面積は2a程度
- 栽培者の内、専業農家と呼べる人はごく僅か
- まだ4シーズン目、4年継続栽培者は3名
- 農業経験ほとんどナシ、会社勤務も継続中
- 実家所有の農地、草刈りだけの管理はウンザリ
- 定年前後、田畑山所有の現実が眼前に・・・

産地化って？

- 農林水産課に所属していると頻繁に『産地化』という言葉を見聞きします。
- 『産地化』って、どういうことなんでしょう？

みなさんはどう理解されていますか？

- どういう状況になれば「産地化された」ことになるのでしょうか？

どうする産地化

- 言葉遊びをするつもりは無いのですが
- 「産地化」という言葉は辞書に載っていませんでした🙄
- 「産地」①その物品が“産出”される土地②人の生まれた土地
- 「名産」その土地の“有名”な産物。名物。
- 「特産」特にその地に産すること

☆keyword 生産高、毎年、生産者数、内外の認知度

☆その物品の産地では無い土地で、
その産物の歴史を創って行くこと

そんなことできるの？

よその土地から来た農業未経験の地域おこし協力隊員
ごときが産地化などという壮大な看板を掲げるなんて

出来そうなのは
産地づくりへのはじめの一步、きっかけづくり

そして栽培を継続して行くこと

さて続けて行くために
何かからはじめましょう

私、38年間営業職でした

Step 1 ローラー作戦

Step 2 興味アリへの詳細説明

Step 3 無理の無い栽培開始

Step 4 勉強会組織の立ち上げ

Step 5 オピニオンリーダー輩出

☆自治体（≡協力隊、農水課） to 市民

⇒ 市民（栽培者） to 市民

という情報の流れに

初年度に行なったこと

- 薬用作物講演会参加者アンケート精査
 - 興味がありそうな人への個別訪問
 - 既存栽培者との人間関係醸成
 - 買取先農事法人との関係づくり
 - 市内農業高校との連携協定事業
- ⇒ 次年度以降の販路の絞り込み
- ⇒ 栽培品目の絞り込み
- ⇒ 栽培者を増やす方策

私は条件に恵まれていました

- 首長自ら薬用作物栽培を提唱している
- 薬用作物専任の地域おこし協力隊員
- 四国内に有力な農事法人が存在
- 元漢方メーカー社員としての一定の経験値
- 人脈による情報獲得と新たな人脈の獲得
- 生薬栽培に共感する人を得た

次年度以降行なっていること

- 買取先との人間関係醸成
- 市報・自治会回覧での説明会告知
- 個別・集合形式説明会実施〔毎年夏〕
- 研究会の設立、勉強会の毎月実施
- 継続的畑訪問とコミュニケーション
- LINEによる情報発信・収集&交換
- 市内農業高校との連携協定事業の支援
- 市長、マスコミへの情報提供

薬用作物栽培事業化に向けての課題

- 確かな買取先
- 栽培に関する情報、技術指導の確保
- 一定の栽培者数の確保
- 情報を適時共有化する手段
- 責任ある栽培者意識の醸成
- 栽培継続の「声」を発し続ける
それは誰ですか？